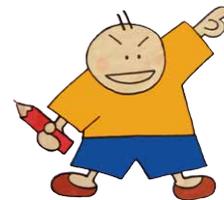


生活者ネットニュース



■発行:多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者:原田恭子 ■連絡先:〒206-0014 多摩市乞田 1227-1-112 番地
■TEL:042-376-5758 ■FAX:042-376-8854 ■ホームページ <http://www.tama-net.jp/> ■E-mail:office@tama-net.jp

154号

青い地球はすべての生きものに依存する

一員としての自覚をもって

コロナの脅威は留まることを知りません。一般に動物由来と呼ばれる感染症は、多種類の動物がバランスよく存在すると広まりにくいとされています。しかし現在、地球上の哺乳類の96%が人類と家畜、野生動物は4%と言われています。こんなにウイルスとの戦いが長引いているということは生態系のバランスが大きく崩れているということをおぼろげに察知しなければなりません。

持続可能な地球との付き合い

持続可能な視点で言えば、人類が年間に消費できる資源の量は地球が1年かけて自然に回復できる量にとどめなければなりません。しかし、全体でその1・7倍消費しており日本に関しては約3倍と言われています。長い間の警鐘にもかかわらずここまできてしまいました。昨年行われた衆議院選挙。そのことが争点になったのでしょうか？

どの政党もコロナ対策と経済の再生がメインで地球の存亡に関わる対策はかすんでいない。



清掃工場で出た熱はこれまでアクアブルーのプールで使用。今後は熱で発電した電力を自家消費の他、余剰分を公共施設で使う予定。

使い捨て時代からの決別

軽くて安くて便利なプラスチック。その容器包装類などが使い捨てにされて海洋汚染につながり、多くの海洋生物の生態を揺るがしています。

市内の市民団体、「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」は活動の一環として川ごみの調査をしています。数で言うと圧倒的に、レジ袋やペットボトルなど様々なプラスチック製の容器包装類、たばこの吸い殻、マスクなどが多いです。私たちが不法に棄けたものが、雨や風に吹かれて、川にたどり着いているのです。一方、95年容器包装リサイクル法で事業者の責任や費用負担は義務づけられたもののその負担は軽く、全国の地方自治体に尻ぬぐいさせている現状です。世界的にも行き場を失ったプラスチックが溢れる中で、今、容器を何度も使ったりユースピンの試みが各地で少しずつ広がっています。そして、

地元でも市民による川の清掃への参加もひろがりを見せているそうです。

再生可能エネルギーをもっと野心的に伸ばす

昨年10月閣議決定した日本の第6次エネルギー基本計画では、電源構成における再生可能エネルギーを30年までに36%、38%に引き上げましたが、50年にゼロを目指すなら50%までもっていくべきでしょう。その上、発電時にはCO₂を出さないといえ大きなリスクがある原発の構成率は20%、22%、石炭は19%と危機感は一掃されなくなっています。

2021年6月、「環境分野のノーベル賞」と呼ばれる「ゴードマン環境賞」を「気候ネットワーク」理事の平田仁子さんが受賞しました。日本国内の17基の石炭火力発電所の計画を中止に至らした数年に及ぶ活動が世界的に評価されたからです。世界の取り組みが加速する今、遅々として進まない日本政府による気候変動対策。長期政



「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」で月1回行われる川の清掃には子どもから大人まで多くの市民が参加している

そしてもっと国を動かす

気候変動には社会的に強い立場の人が原因をつくり、弱い立場の人が被害を受けるという理不尽な面があります。先進国と後進国、貧困、人種、ジェンダーなど多様な格差があります。それが再生産され強められていくのです。

世界中の市民や市民団体が危機感を持って様々な実践を行っていてもなかなか負える範囲でありません。国を動かすことを私たちは自らできることを実践し、実践している人や団体を支持し一緒に行動しながら、政治を機能させていく努力をすべきです。今年も参議院選挙があります。しっかりと候補者の政策を見極め、選ぶことが必要です。

もはや「もったいない」レベルの話じゃない!

年間600万t。日本で廃棄されている、『まだ安全に食べられる食品』の推定量だ。この量は、東京都民が年間で消費する食品量に匹敵するという。

食品ロスの問題に触れられる時、恵方巻が筆頭にのぼる。しかし食品廃棄施設の担当者は言う。「恵方巻シーズンに食品廃棄が激増するという事は無い。いつもと同じ。」つまり、メディアで流れる衝撃的な場面は、毎日繰り返して生じ続けているのだ。

一方で、経済的な事情から、必要な栄養を摂れず、苦しい生活を強いられる方たちがいる。あるのに行き渡らない。重大な課題が、私たちの社会に横たわり続けている。地球の恵みは全ての生き物の共有物のはずなのに、その輪を分断し格差を生み続ける物の正体は、何なのか。

地球の資源には限りがある。身の丈から溢れるほどに欲しがり、活用しきれず棄てる構造が放置されて良いのか。未来の資源を前借りしては棄て続ける国に、果たして持続可能な社会は訪れるのか。

NPO法人シエアマインド

松本靖子



レング坂は丁寧な話し合いを重ねて！
子どもとの関係を再び認識して！

■愛されるレング坂を残すために
中央公園西側のレング坂は、当時高額だったレングを敷き、おしゃれな街灯や、ユリノキの街路樹を設置しました。近年、滑り易い路面、電動自転車の普及。またユリノキの老木化、高木化、狭い樹間、共同溝で根が張れず倒木の危険が課題になり、改修が計画されました。

このコロナ禍、計画はあまりに唐突に感じられました。ここは市の認識では道路ですが、市民にとっては愛する中央公園の一部です。市は市民の声を受け、広報の掲載、掲示板設置、再度の説明会などを行い、市民の理解も得られてきたようです。今後、まだ続くであろうコロナ禍にあっても、中央公園に限らず市民への丁寧な説明責任と、木の伐採についてはCO₂削減を常に心がけて欲しいとの思いで質問しました。

■子どもとの関係を見直す機会に
「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」が成立しました。しかし対象を若者と子どもを一緒にしたため、国連の「子どもの権利条約」に基づく子どもの権利の視点が薄れていきます。

おとなが無意識に用いる「権利には義務が伴う」といった観念や、親子の会話にありがちな、「宿題をしたらゲームしてもいいよ」といった許可ではありません。ご飯を食べる・安心して寝る・遊ぶ・愛されるなどは、無条件の、決して奪われてはならない権利です。

怒りやイライラは弱い立場に向かうことがわかってきます。この条例制定を機にすぐに出来ることとして、保育園や幼稚園の個人面談等でこうした啓発がなされ、市民が「子どもの権利」の理解を深めることを願っています。



共生社会の実現～高次脳機能障害があっても、安心して暮らせるまちへ～

■家族への支援がポイントに
市では高次脳機能障害専用の相談窓口「あんど」を設置し、当事者だけではなく、例えば当事者が子どもを養育している場合、子どもが高次脳機能障害についての知識を学べるように対応するなど、家族への

高次脳機能障害とは脳梗塞などの病気や交通事故などの外傷が原因となり、脳に何らかの損傷が生じることによって、思考、記憶力、判断力の低下や言語障害などの症状が、身体的には問題がなくても様々組み合わされて現れます。それにより日常生活や社会生活に支障が生じます。精神障害者保健福祉手帳のほか、身体障害者手帳、愛の手帳の取得も可能性があるため、市内の高次脳機能障害者の正確な人数を把握することはできません。東京都の調査を基にすると市内には590人程、高次脳機能障害の方がいると推計されます。

■理解を深めたい障がい者の特性
また高次脳機能障害は外見上障がいが目立たないため、理解されにくく、当事者や家族はより一層の苦しみを抱えることもあります。また在宅での日常生活で出現しやすいために、診察場面で医療スタッフに見落とされやすく、生活での困難さが障がいがあると気付かず生活を送っている人もあると言われています。高次脳機能障害への理解や困難さへの気づきを促すためにも啓発事業は重要です。

支援や対応をしています。しかし高次脳機能障害には本人自身も障がいを十分に認識できないという特徴もあり、当事者が自ら相談に行くのは極めて困難です。「あんど」が専用の窓口として、自ら相談には行けないが支援を必要とする当事者にどう寄り添って行くのか、市もそのための対応を考えていく必要があります。

多摩市内の1120棟に太陽光パネルあり



上:報告会
下:使用した市内の地図。膨大な作業をした。

12月18日開催の消費者フェスタ(ベルブ永山)で、恵泉女学園大学の学生が作成した「地球環境ソーラー台帳プロジェクト」の報告会が行われ、参加してきました。

■ニュータウンを自然エネルギーの発電所に
人文学部の学生5人が一般社団法人多摩循環型エネルギー協会と共同で調査。市内を7エリアにわけ、衛星写真利用サービス「グーグルアース」を使って屋根を調べ、現地を訪れてパネルを確認したり、約一カ月かけて棟数を算出、エリアごとの設置状況を調べました。結果、7万2千世帯中、1120棟に太陽光パネル、118棟に太陽熱の給湯設備があり、発電規模は7千275キロワットと推計されます。

市は2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロにする「気候非常事態宣言」を出し地球温暖化防止に努めていますが、パネル設置の補助金を使った設置件数しか把握しておらず、その数値は1666キロワットです。すからかなりの差があることが判明しました。また、設置されている1100棟は一戸建て住宅、公共施設、商店などで、集合住宅への設置率が低いということも分かりました。今後、多摩市として学生が調べたデータを政策に活かし、課題である集合住宅への設置を考えていく必要があります。

infomation

一足お先に見てきました パルテノン多摩内覧会

ゆったりしたホールの椅子、キッズスペース、キッチンラボ等、オープンが楽しみです。3月には一般向け内覧会も予定されています。(岩崎みなこ)

■パルテノン多摩 一般向け内覧会

3月27日(日) 9:00～17:00 (予約不要で自由に館内を見られます。)
3月28日(月)～3月30日(水) 9:00～/10:00～/11:00～ 事前予約制でスタッフの案内あり。(詳細は<https://www.parthenon.or.jp/event/20220327>)



左:大ホールの座席 中:子ども広場 右:大ホールの中2階まで行けるエレベーター

学校給食の牛乳について考えるアンケートに協力を!

生活クラブ運動グループ多摩市地域協議会(生活クラブ生協、子育て応援団・そらいろのたね、多摩たすけあいワーカーズつむぎ、NPO法人麻の葉、生活者の会)で実施しています。

牛乳は学校給食でカルシウム摂取のため有効な食材としてほぼ毎日提供されています。牛乳アレルギーの子は診断書を提出して免除されていますが、アレルギーはなくても、牛乳が苦手だったり体に合わないと感じて飲めない子が少なからずいます。飲めないとわかって断ることができないのが現実です。令和2年6月から翌年1月まで多摩市の小中学校で廃棄された牛乳が115431本あるのです。この現状をどう思いますか?

学校現場での食品ロス、何とか解決する方法はないでしょうか? アンケートにご協力ください! 右記QRコード多摩ネットHPから番号でお答えください。ご意見もお寄せください!



今さら聞けない!?

ごみの出し方
作業を見かけたら、段ボールを縛っている紐を外しながら回収していた。ひもはじゃまなの?
段ボールがちらばらないようにしてもらえば、箱の中につめてもOKです。